

特集

# 修学旅行



学校行事の思い出という、学校対抗戦・文化祭・体育祭・修学旅行とそれぞれの胸にいろいろな情景が浮かぶと思う。今回、わが校の修学旅行の変遷について振り返ってみたい。卒業生の皆さんにはどんな思い出が胸に刻まれていることだろうか。

## 岡山朝日高校以前

### 岡中・一中・一高

わが校の修学旅行の最初の報告がされたのは明治二十六年である。岡山中学では、もともと『修学旅行』は主として博物と地歴の勉学を念頭にいた資料採集などのための旅行であった。それとは別に兵式訓練として、武器を携え、宿泊をしながらの行軍が行われていたのが、明治二十年代の終わりには、両者が合流して『修学旅行』という名を冠するようになった。この頃、行き先は別々だが同じ時期に全年出掛けるスタイルが基本だった。長きは一週間にあたり一日二十km以上歩き露営しながら行ったとの記録もある。当初、交通手段は徒歩・船が主であったが、明治二十八年の全校生による京都での勸業博覧会の見学からは主に汽車を利用するようになった。他校視察もよく行われ、行き先は、天皇ゆかりの地や軍事施設が多くなっている。修学旅行がこのような目的、スタイルで実施されるのは当時の教育界の常識であったようだ。一中で

昭和五年を最後に修学旅行はされていない。これも戦時色が強くなっていった当時の世相を反映したものと思われる。



▲江ノ島(二女)

## 岡山朝日高校になって

### 修学旅行再開まで

昭和二十三年に新制高校となってから昭和三十五年まで修学旅行はなかった。一中と二女が統合された岡山朝日高校は、すべてにおいて岡山一中の伝統を引き継ぎ、修学旅行も当然のごとく行われなかった。常に勉強が生徒の本分とされていたのである。また当時の職員には岡山一中卒業生も多く、当然の理として受け入れられたようである。

しかし二女においては修学旅行の伝統があり、昭和二十七年に職員会議で議論され、進学を対象としない女子に限り実施するとの案が提出されたが、参加希望者が少なかったため中止となった。

昭和二十四・二十五年度から近隣諸校では、すでに修学旅行が実施されていた。岡山朝日高校でも生徒から、修学旅行を復活してほしいという要望が出てきた。昭和三十四年に生徒側と学校側の話し合いの結果、原田校長の意向もあり、同年暮れの職員会議で翌年からの修学旅行の実施が決定された。

## 念願の修学旅行復活

岡山朝日高校になって最初の修学旅行は昭和三十五年十一月四日から一泊二日の広島・宮島への旅であった。この頃は長期休業中ではない時期の旅行であり、翌日は平常授業が行われた。同時期他校では二泊三日や三泊四日、北九州方面や関東・南九州方面などへの旅行が行われていた。

## 二泊三日そして夏休みへ

昭和四十五年には二泊三日になってからも行き先は広島・山口方面が定番となっていた。昭和四十九年からは信州方面と変更となっている。

そして昭和五十三年より実施時期が、十一月の観光シーズンから夏休みとなった。共通一次試験開始により学校行事の時期の見直しがされたためである。

## パッケージ型旅行から選択型研修旅行へ

その後、学区制度の変更を前にした平成八年より行き先は北海道へと変わり、平成十四年には沖縄方面と初の海外韓国との選択旅行を行った。しかし、海外情勢や新型コロナウイルス(SARS)の影響で海外旅行は一回限りとなっている。平成十五年からは特色ある学校づくりの一環で、自主学习として、朝日校のOBや人脈を生かして通常訪れることのできない場所(東大や国会議事堂・最高裁判所・東京証券取引所・宇宙科学研究所(JAXA)など)で、卒業後の進路を考える体験を交えたグループ研修方式となった。

夜はナイトスタディとして観劇やディナークルーズ、ナイター観戦、テニス・ゴルフなど、多岐にわたっている。しかし今も二泊三日というスタイルは変わらず続いている。一生の思い出に旅

▶昭和五十六年卒(後方がすかに世界遺産富士山)



岡山駅前(昭和48年卒)



奈良東大寺(昭和41年卒)



奈良東大寺(昭和41年卒)